

第6回

岡山大学大学院自然科学研究科 分子行動学研究室

日本学術振興会特別研究員PD

**勝村 啓史 博士**

メダカから得る人類学的知見

—新奇性追求行動と消化管長の集団差とその進化について

私達ヒトは他の近縁種とは異なり、地球上のあらゆる地域に拡散し、それら様々な地域において固有の形質に違いがみられる。さらに近年のハイスループットシーケンサーの登場により、ゲノムワイドな解析が進められ、ヒトの地域差に関わる遺伝子多型が多数報告されている。そして、これまでに立てられてきた仮説や観察されてきた現象がDNAレベルで説明され始めている。しかしながら、実際にヒトを用いて、それら遺伝子多型の機能解析や進化的意義を明らかにするのは容易ではない。そこで私たちは、ヒト集団と同様に豊富な遺伝的多様性が知られているメダカに着目した。ヒトの多様な形質に関わる遺伝子の探索及び機能推定をする目的で、ヒト集団内でみられるアレル・形質と似たメダカのアレル・形質を探索し、それらの機能解析を行う実験系を構築した。現在はヒト系統で起こった消化管長の変化や冒険遺伝子仮説に関わるゲノム領域の特定と、その進化的意義の検証をメダカで進めている。本発表では、新奇性追求行動や季節変動を示す消化管長にみられるメダカ地域集団差に着目し実施した解析結果（途中経過）を中心に、ヒト進化を理解することを目的としたメダカを用いた本アプローチを紹介したい。

**10月26日 (木) 10:30-**

琉球大学 亜熱帯島嶼科学拠点研究棟 3F会議室

※ ご参加・聴講は自由です (事前申し込み不要)

皆様のご来聴を歓迎いたします。

お問い合わせ先： 熱帯生物圏研究センター 矢口甫

[hjiroo@gmail.com](mailto:hjiroo@gmail.com)